

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.130 - 2019年10月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

「では、ドン・ボスコのサレジオ会員は、この福音宣教特別月間をどのように過ごしているんですか?」「サレジオ会員は何をしているの?」簡単な、そして人があつげにとられるその答えは：サレジオ会員たちは、da mihi animas coetera tolleを心にしっかり留め、輝かせる、沈黙のうちに、あるいは大きな音をたてて、多くの注目を浴びながら、あるいは隠れて。そうです、私たちの宣教の心、ドン・ボスコ自身の心は、イエスの使徒的情熱に満ちています。

これこそ、この月にあって、サレジオによる最良の貢献であるにちがひありません。

このとても特別な月に、サレジオ会から教会への、教皇フランシスコと、世界中の若者への最も美しく雄弁な贈りものは、第150回宣教派遣であるにちがひありません。世界各地から、世界中へ。あらゆる年齢の人々・サレジオ会員は23歳から80歳まで。若者のために! サレジオの神学生、修道士。あの1875年の11月11日をよみがえらせ、受け継いでいくために。そして私たちは、その輝かしい宣教の日付の150周年、2025年11月11日に向け、準備しています。同時に、非常に戦略的な宣教の前線で活動が行われています。例えば：バヌアツに“上陸する”夢をいだきながら遠い太平洋の島々で；アマゾンにおける意味深い存在は、森林の奥深くだけでなく、今月、シンドスにおいても；ヨーロッパにおける難民・移民のための預言と英雄的な奉仕；アフリカの難民キャンプにおける、良きサマリア人としてのドン・ボスコの存在；イスラム教徒が大多数を占める国、あるいは正教徒が多数を占める国での、若者たちの輝かしいキリスト者としてのあかし、殉教にさえ至るあかし。

教皇フランシスコ、この福音宣教のための特別月間を感謝します!

ドン・ボスコのサレジオ会員はここにいます。ともし火を掲げて!

若者のための宣教の前線に立つ者として!



Baptised  
and sent  
洗礼を受け、遣わされる

J. Basanes

宣教顧問 ギジェルモ・バサニエス神父

## 第150回宣教派遣

(ANS - トリノ) - 9月29日、サレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は第150回宣教派遣のミサを司式し、ミサの中で、36名のサレジオ会員と14名のサレジアン・シスターズに宣教の十字架を授けた。副総長フランチェスコ・チェレダ神父、宣教顧問ギジェルモ・バサニエス神父、サレジアン・シスターズ総長マドレ・イヴォンヌ・ランゴア、宣教顧問シスター・アライデ・デレッティらが列席し、見守った。

扶助者聖母大聖堂の中庭のドン・ボスコ像の前で、総長は、第150回宣教派遣の36名の新しい宣教師たちと共に、2019年

の宣教への呼びかけのため、準備を開始した。例年のように、その呼びかけは12月8日、無原罪の聖マリアの祭日に行われる。サレジオ家族が誕生し、サレジオのカリスマがしっかりと固められるのを見守ったまさにこの中庭から、世界中のサレジオ会員に向けて呼びかけたいと、総長は願っている。

この行事の直前には、若さあふれる、メディアを駆使した宣教師たちの紹介が、ヴァルドッコのオラトリオの劇場で行われた。宣教顧問シスター・アライデ・デレッティは12名のFMA宣教師を、宣教顧問ギジェルモ・バサニエス神父は3組の「十二使徒」として36名のSDB宣教師を紹介した。録画された何人かの宣教師のインタビューは生き生きとした、見応えのあるものである。このイベントはRete 7とさまざまなフェースブック・チャンネルで中継放送された。





# 第150回宣教派遣



ミサの説教で、総長は、1875年の最初の宣教派遣から144年、第150回宣教派遣となるこの日が、会にとって、教会にとって、大きな祝い日であると強調しました。宣教派遣は、二度にわたる悲惨な大戦のさなかも途絶えることがなかったのです。

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父は、興味深い点に着目しました。宣教顧問の執務室には宣教師台帳があり、150回にわたる派遣によって扶助者聖マリア大聖堂から総長によって送り出された9,542名のサレジオ会宣教師の名前が記録されています。実際に派遣された宣教師の総数は、10,400名以上に上ります。私たちの会は若者の教育と福音宣教のための会として知られており、この数

字を見るとき、私たちが真に宣教する会であると、確かに言うことができます。イエスへの愛の炎は、壁に囲まれた中にとどまることをゆるしませんでした；その反対でした。

最も重要な点は、まさにイエスが私たちの人生の中心であるということです：神は私たちを呼ばれ、遣わされる……人生を分かち合うため、与えるため……生き方をもって、愛徳の模範をもって、すべての一人一人ひとりの多様性への大きな尊敬をもってイエスをあかしするために。……教皇フランシスコの呼びかけによって取り組まれている2019年10月、福音宣教のための特別月間へのサレジオの応答は、この宣教派遣です。あらゆる大陸において、イエスの現存をより豊かなものとするために。

総長は続けて説教の中で、特別なあかしとして3人の例を紹介しました。世は教師や教授ではなく、あかし人を必要としているのです。

マルチェット・メラーニ司教：イタリア出身、アルゼンチンで長年宣教師として働き、パタゴニア（ネウケン教区）の司教としての奉仕を終えると所属管区に戻り、教会の主任司祭、カテキストになりました。メラーニ司教は教皇と総長の呼びかけに応える用意がると感じ、その応答は受け入れられました。司教はペルーに派遣されます。

バシル・スッカル神父：シリア人、71歳、イスラムの環境でのオラトリオ運営の専門家。中東管区から志願し、チュニジアに派遣されます。オラトリオの喜びをもたらすために。特にイスラム教徒の若者のため。

ジェルマン・ブラコー＝ムラバ神父：トーゴ人。ブルキナファソで起きた、セザル・アントニオ・フェルナンデス神父（2019年2月）とフェルナンド・エルナンデス神父（2019年5月）、二人の殉教に居合わせました。ジェルマン神父はどちらの場合も神父たちの傍らにいたので、なぜ自分が殺されなかったのかわかりません。彼は今ここにいて、回復しつつあります、そして心は穏やかさと平和に満たされています。ゆるすことができ、イエスとその愛に心を満たされて人生を歩みつつづけているからです。ここに、言葉で語り尽くせない、生き方のあかしがあります。

ジャンニ・ロランディ神父, SDB



## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ピエルルイジ・カメローニ神父

神の僕エリア・コミーニ神父（1910 - 1944）。今年の10月1日は、ナチスの手によるコミーニ神父の死の75周年に当たる。ドン・コミーニは拘留された何人かの人を擁護し、その人々が救われるために自らのいのちを差し出した。1928年、日記に次のように記している。「私の魂は、これからの一年、特別な意味でドン・ボスコの精神を知ることにならなければならない：喜び、信頼、共感、感じそして生きるやさしさ；家族的精神、行動の柔和なやさしさ、落ち着いた心でたゆみなく目覚めていること、神との一致。ドン・ボスコ自身が私のために考えてくれるであろう、大いなる、聖なる計画だ。私は生ぬるい凡庸さに傾きがちかもしれない。それは自分が決して好んだことのない悪いもの、人の中にあるのを見てもがまんできないものだ。生きること、勇氣、炎。」

## 教会の宣教の春のために



## サレジオ会の宣教の意向

サレジオ家族・若者、信徒、修道者・の中で、多くの人々が、地の果てまで福音を告げ知らせるため共に働く、福音宣教への招きを感じますように。

今年、教会は、「マクシムム・イルド」の発布100周年を記念し、「福音宣教のための特別月間」を祝っています。サレジオ会は第150回宣教派遣を行います。青少年司牧全体に宣教の熱意がいつも満ちているよう、祈りましょう。

